CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

(仮称)箱根強羅ホテル計画　西棟

■使用評価マニュア CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**2.7**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**2.8**
1 音環境				**2.6**	0.15	**3.2**	1.00	**2.6**
1.1 室内騒音レベル			−	**3.0**	0.40	**3.0**	0.40	
1.2 遮音				**3.0**	0.40	**3.6**	0.40	
	1	開口部遮音性能	客室開口部はT-2とする	3.0	1.00	5.0	0.30	
	2	界壁遮音性能	−	-	-	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	−	-	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	−	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音			−	**1.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2 温熱環境				**3.0**	0.35	**3.0**	1.00	**3.0**
2.1 室温制御				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
	1	室温	−	3.0	0.38	3.0	0.57	
	2	外皮性能	−	3.0	0.25	3.0	0.43	
	3	ゾーン別制御性	−	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御			−	**3.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2.3 空調方式			−	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				**2.5**	0.25	**3.6**	1.00	**2.6**
3.1 昼光利用				**2.4**	0.30	**4.2**	0.30	
	1	昼光率	宿泊室の昼光率が1.25%以上	2.0	0.60	5.0	0.60	
	2	方位別開口	−	-	-	-	-	
	3	昼光利用設備	−	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				**2.0**	0.30	**4.0**	0.30	
	1	昼光制御	すべての宿泊室にバルコニー(庇)とロールスクリーンがあります。	2.0	1.00	**4.0**	1.00	
3.3 照度			−	**3.0**	0.15	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御			−	**3.0**	0.25	**3.0**	0.25	
4 空気質環境				**3.0**	0.25	**3.0**	1.00	**3.0**
4.1 発生源対策				**3.0**	0.50	**3.0**	0.63	
	1	化学汚染物質	−	3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				**3.0**	0.30	**3.0**	0.38	
	1	換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33	
	2	自然換気性能	−	-	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮	−	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				**3.0**	0.20	-	-	
	1	CO_2の監視	−	-	-	-	-	
	2	喫煙の制御	−	3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				−	**0.30**	-	-	**2.7**
1 機能性				**2.4**	0.40	**4.2**	1.00	**2.5**
1.1 機能性・使いやすさ				**3.0**	0.40	**5.0**	0.60	
	1	広さ・収納性	A2:50.19㎡	-	-	5.0	0.50	
	2	高度情報通信設備対応	各客室にCAT6LANを見込んでいる。	-	-	5.0	0.50	
	3	バリアフリー計画	−	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				**1.0**	0.30	**3.0**	0.40	
	1	広さ感・景観	客室の天井高が2.7m以上	-	-	5.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース	−	-	-	-	-	
	3	内装計画	−	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	−	3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保	−	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				**2.7**	0.30	-	-	**2.7**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	−	3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	−	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**2.8**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	−	3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	−	2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	−	3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	−	3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	−	3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	−	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**1.8**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	−	1.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	−	1.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	−	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	−	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	−	1.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	2.5	1.00	2.9
	3.1 空間のゆとり			-	-	2.0	0.50	
	1	階高のゆとり	—	-	-	2.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境（敷地内）			—	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		—	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		—	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性				-		-	2.7
LR1	エネルギー			—	0.40	-	-	2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.67	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.0	0.50	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル			—	0.30	-	-	2.6
1	水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水		—	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
	2.1 材料使用量の削減		—	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		—	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		—	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	窒素ガス消火設備	4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	A種1H区分採用	5.0	0.33	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.33	-	-	
LR3	敷地外環境			—	0.30	-	-	2.8
1	地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮			1.9	0.33	-	-	1.9
	2.1 大気汚染防止		—	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		—	1.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2　サービス性能															
1.2.3 内装計画	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	–	–	–	–	–	○	–	○		○	–
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		○	○			○	–	–		–	○	–	○	–
2.4.1 空調・換気設備	–		–	–	–	–	–								
2.4.2 給排水・衛生設備	–	–	–	–	–	–	–	–	–						
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	–	–	–	–	–							
2.4.5 通信・情報設備	–		–	–	–	–	–	–							
Q3　室外環境(敷地内)															
1　生物資源の保全と創出	6.0		–	–	2.0	–	–	1.0	1.0	–	1.0	1.0	–		
2　まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	–	–	–	–							
3.1　地域性への配慮、快適性の向上	3.0		–	–	1.0	–	1.0	1.0	–	–					
3.2　敷地内温熱環境の向上	6.0		–	2.0	1.0	3.0	–	–	–	–	–				
LR1 エネルギー															
2　自然エネルギー利用	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			–	–	–	–	–	–	–	–					
2.1　材料使用量の削減	–		–	–	–										
2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	–	–	–	–								
2.6　部材の再利用可能性向上への取組み	–		–	–	–	–									
3.1　有害物質を含まない材料の使用	–														
LR3 敷地外環境															
2.2　温熱環境悪化の改善	–		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		–	–	1.0	1.0	–	–							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		–	1.0	1.0	–		–	–						
3.2.2 砂塵の抑制	–		–	–											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		–	2.0											

主な指標

Q1　室内環境

2.1.3 外皮性能
窓システムSC　–　窓の日射熱取得率(η)　–
U値(W/m2K)　窓システム　–　屋根　–　外壁　–　床　–
住戸部分　窓システムU値　–　外皮UA値　–　ηAC　–　ηAH　–

3.1.1 昼光率
昼光率　2.0%

4.2.2 自然換気性能
自然換気有効開口面積率　–

Q2　サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
執務スペース　–　/人　病床　–　/床　シングル　–　ツイン　A2:50.19㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応
コンセント容量　–　VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
天井高　2.7 m

1.2.2 リフレッシュスペース
リフレッシュスペース　–　レストスペース　–

2.2.1 躯体材料の耐用年数
想定耐用年数　–　年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
想定必要間隔　–　年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
想定必要間隔　–　年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
想定必要間隔　–　年

3.1.1 階高のゆとり
階高　–　m

3.1.2 空間の形状・自由さ
壁長さ比率　–

3.2　荷重のゆとり
床荷重　–　N/m2

Q3　室外環境(敷地内)

1　生物資源の保全と創出
外構緑化指数　40%　建物緑化指数　0%

3.2　敷地内温熱環境の向上
空地率　64%　水平投影面積率　18%　地表面対策面積率　35%　舗装面積率　56%

LR1　エネルギー

1　建物外皮の熱負荷抑制
BPI/BPIm　0.67　断熱等性能等級　対象外　相当

2　自然エネルギー利用
自然ｴﾈﾙｷﾞｰ直接利用量　0 MJ/年㎡　採光を満たす教室数　0.0%　採光を満たす住戸数　0.0%
通風を満たす教室数　0.0%　通風を満たす住戸数　0.0%

3　設備システムの高効率化
太陽光　.0kW　太陽熱等　.0kW　蓄電池　.0kW

非住宅部分
BEI/BEIm　再エネ有　0.80　無　0.80　ｵﾌｻｲﾄ再エネ有　–　–

集合住宅の評価
一次エネ削減率　再エネ有　無　–

LR2　資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
雨水利用率　0.0%

2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
特定調達品目　–　エコマーク商品　–　自治体指定の特定品目等　–

2.5　持続可能な森林から産出された木材
使用比率　0.0%

3.2.1 消火剤
オゾン層破壊係数(ODP)　0　地球温暖化係数(GWP)　0

3.2.2 発泡剤(断熱材等)
オゾン層破壊係数(ODP)　0　地球温暖化係数(GWP)　1

3.2.3 冷媒
オゾン層破壊係数(ODP)　–　地球温暖化係数(GWP)　–

LR3　敷地外環境

2.2　温熱環境悪化の改善
見付面積比　–　隣棟間隔指標Rw　–
地表面対策面積率　–　屋根面対策面積率　–　外壁面対策面積率　–
見付面積Sb　–　卓越風向と直交する最大敷地幅Ws　–　m　基準高さHb　–　m
緑地　490㎡　水面　㎡　保水性対策面　㎡　高反射対策面　㎡　再帰性反射対策面　㎡